

今年度の事業実施内容

一般公募(ボランティア)による植栽等(5月)

- 天然更新区域における補植、ツリーシェルターによる被覆(笹地13)
- ミズナラ、ハルニレ、ヤチダモ計200本植栽(更新指数0.4以下の処理区を対象)

雷別ドングリ倶楽部による植栽等(6月)

- 天然更新区域・人工植栽区域における補植、ツリーシェルターの被覆(笹地10)
- ミズナラ、ハルニレ、ヤチダモ計200本植栽(更新指数0.4以下の処理区を対象)

雷別ドングリ倶楽部による植栽等(7月)

- ウサギ柵の設置(笹地12)

建設業者、釧路高専、雷別ドングリ倶楽部による植栽等(9月)

- 人工植栽区域・天然更新区域における補植、ツリーシェルターの被覆(笹地12)
- ミズナラ、ハルニレ、ヤチダモ計180本植栽(更新指数0.4以下の処理区を対象)



ボランティアによるツリーシェルター被覆作業



ウサギ柵の設置



ボランティアによる植栽

来年度の事業実施内容

- 補植(既着手区笹地10~13)
- 人工植栽区域での地表処理(未着手区笹地4~9)

このようなことが話し合われました。(詳しくはHPをご覧ください)

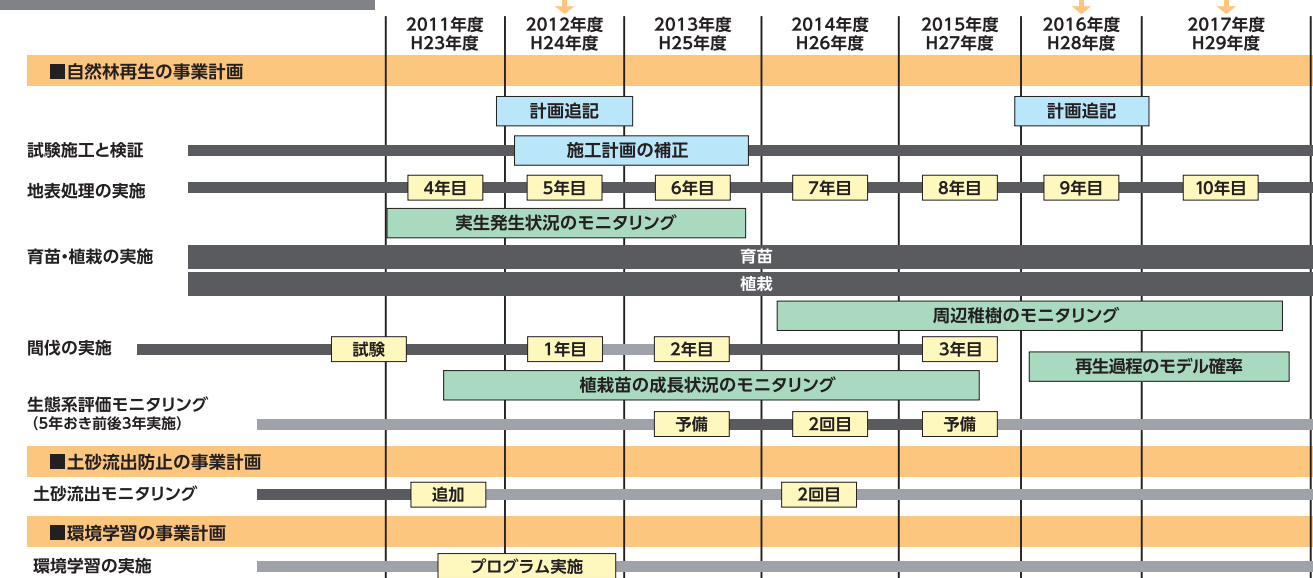
委員長 委員 事務局

- 現地へ行き、改めてボランティアの皆さんの力で再生事業が進められていることを感じた。
- 食害がエゾユキウサギによるものだという事に驚いた。様々な対策が必要になるという感想を持った。

- ツリーシェルターは高価だと感じた。再利用することはできないのか。
- 様々なことを検討し、エゾユキウサギの問題に取り組むことが重要だと考えている。

達古武地域自然再生事業について

実施計画におけるスケジュール



今年度の事業実施内容

1 再生工事

- 植栽 3.75ha(総面積11.77ha:35%) 約1.3万本(総本数 3,8万本:95%)
- ササ刈り 春季~夏季 5.92ha ●防鹿柵設置(網の設置) 1,747m
- 育苗(播種・定植~管理~仮植)

2 調査等

- 稚樹の生育状況調査・再生過程の追跡調査・エゾシカによる影響調査
- 施工区1~5工区の現況整理と管理台帳の作成
- 達古武川上流部の自然環境調査
- 環境学習プログラムの実践(GW連携事業含む)



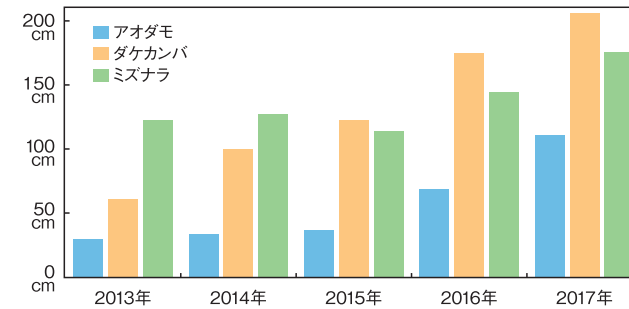
環境学習プログラムの実践

今年度の調査結果速報

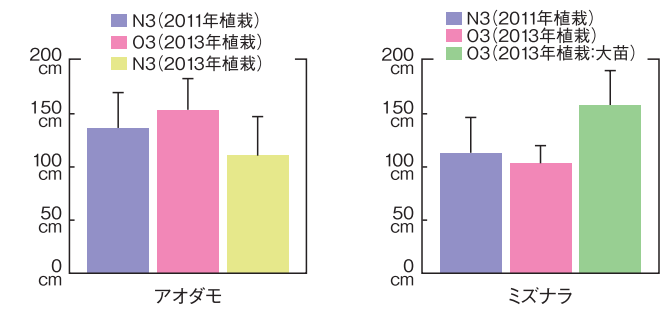
1 再生過程(苗木の成長)の追跡

<植栽した185本を対象>

平均樹高の推移(樹種別)



植栽年・場所別の平均樹高



調査結果

- 植栽から4年経過し、平均樹高がダケカンバ2m、ミズナラ1.5m、アオダモ1mを超える(2013年調査開始個体)
- 植栽年や場所により、成長に差が見られる

方針

- 保育を要する年数を樹種ごとに推定
- 植栽年や場所による成長速度の違いも考慮

2 エゾシカによる稚樹の被食状況

<柵外に生息する稚樹183本を対象>

調査結果

- 冬季の食痕率は昨年よりも増加。降雪量により被食の影響が変化
- 夏季の食痕は減少傾向
- 被食されても樹高は増加傾向

方針

- 樹高増加や夏季のシカの影響の減少に捕獲の効果が出ている
- 今後、ササや林床への影響について柵内外で調査

3 各工区の現況調査及び台帳作成

- 上層木・林床・植栽木・天然更新の現況調査(1-5工区の78区画)
- 今後の施工方針の決定と管理のために台帳を作成

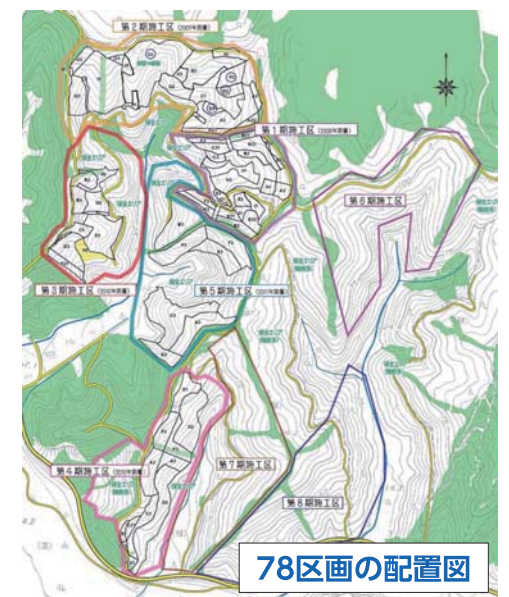
4 各工区の現況概要

- 植栽済の区画は23区・約10ha
- 植栽した苗(2009-2011年)は、エゾシカの被食により小サイズ苗の枯死などが多発。順次補植済
- 植栽した苗(2012年以降)は順調に生育しているため、今後、下刈等の保育スケジュールを設定
- 地表処理区の天然更新は大部分で進捗状況が停滞

その他の取り組み

1 種苗生産

- 植栽用の地域産種苗の育苗は継続的に実施中
- 植栽は1-4工区で実施。延べ実績は38,000本
- 今年度は全体的に不作もあり、採種は未実施



78区画の配置図

2 達古武川上流部調査

- エゾシカ対策を実施する立木選定と現況調査
・エゾシカの嗜好性が高いニレ類とアオダモ75本を選定 ・株ごとに保護する防除資材を設置予定
- 森林を活用した環境教育プログラムの検討
・プログラム適地やテーマ選定のための予備調査実施

3 環境学習プログラムの実施

- 釧路湖陵高校(6月27日実施)：エゾシカ・沢の生き物・森の昆虫(1年生対象)
- まなぼつとわくわく体験隊(9月2日実施)
：野ネズミや水生生物の観察 釧路市生涯学習センターと共催。(小学生対象)
- 昆布森中学校(10月20日実施予定)：野ネズミと種子散布(全校生徒対象)
- 冬の調査体験(2月実施予定)：エゾシカの痕跡や沢の生き物などを観察
- プログラム用小冊子の英訳版の制作(協力：上智大学)



釧路湖陵高校環境学習プログラムの実施状況



「まなぼつとわくわく体験隊」実施状況

来年度の事業実施内容

1 再生工事

- 植栽、ササ刈り ●育苗(播種・定植～管理～仮植、採種)
- 受光伐の検討 ●上流部アクセス路(測量)

2 調査事業等

- 稚樹、ササ類等の生育状況調査
・再生過程の追跡調査 ・エゾシカによる影響調査
- 森林生態系モニタリング調査
・地表性昆虫類の予備調査
- 環境学習プログラムの実践

このようなことが話し合われました。(詳しくはHPをご覧ください)

● 委員長 ● 委員 ● 事務局

● 事業は順調であり、特に課題は無いということか。

● 大きな課題は、苗木を一区画に多く入れる事により、植栽面積が伸びてないということ。現況調査で天然更新調査をしているので、植栽木の見直しを行ってきたい。

● 来年度の実施予定に受光伐の検討とあるが、伐採する際に植栽したものに対する影響は無いのか。

● 列状に伐採すると伐倒方向を自由に決められないため、できるだけ広い区画、小面積皆伐のような形で伐採ができれば良いと考えている。

● 倒す方向は融通が利くと思うが、結果的に引きずることになるのではないかと。この程度下層木に影響を与えるかというようなデータをこれまで取っていたか。

● 下層木の被害については昨年データで報告済みである。急傾斜地では余裕が無いため、どうしても同一方向に引っ張ることになり、損傷木が増えているという状況である。

● 2009年から2011年迄は、食害や小サイズ苗の枯死などがあるが、2012年以降は順調に生育している。この違いは何か。

● 違いは、苗木の高さを50cm以上に育成してから植え付けを行ったこと。また、この時期から食害対策のため徐々に防鹿柵の設置を行っており、二重の対策を行っている。

第17回 森林再生小委員会 [出席者名簿 (敬称略、五十音順)]

個人[4名]

加藤 ゆき恵(釧路市立博物館)
清水 信彦
杉澤 拓男
中村 太士(北海道大学大学院 農学研究院 教授)

関係行政機関[4機関/4名]

国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部 [治水課長 石澤 肇]
環境省 釧路自然環境事務所 [所長 安田 直人]
林野庁 北海道森林管理局 [森林整備部長 石原 聡]
釧路市 [環境保全課長補佐 元岡 直子]

団体[7団体/7名]

釧路国際ウェットランドセンター [事務局長 菊地 義勝]
釧路自然保護協会 [会長 神田 房行]
釧路造園建設業協会 [会長 吉田 英司]
釧路武佐の森の会 [会長 大西 英一]
さっぽろ自然調査館 [代表 渡辺 修]
標茶西地区農地・水保全隊 [隊長 佐久間 三男]
公益財団法人 北海道環境財団 [安田 智子]

資料の公開方法

委員会で使用した資料および議事要旨は、釧路湿原自然再生協議会ホームページにて公開しています。
<http://www.hkd.mlit.go.jp/ks/tisui/qgmend0000003ppq.html>

ご意見募集

釧路湿原自然再生協議会運営事務局では皆様のご意見を募集しています。電話・FAXにて事務局まで御連絡下さい。

釧路湿原自然再生協議会
運営事務局

TEL (0154) 23-1353 FAX (0154) 24-6839

2017年10月19日(木)
「第17回 森林再生小委員会」が雷別地区及び
釧路地方合同庁舎7階 第5会議室 で開催されました。

開催概要

「第17回森林再生小委員会」が平成29年10月19日(木)に、雷別地区及び釧路地方合同庁舎7階 第5会議室で開催されました。小委員会には、15名(個人4名、団体7団体、関係行政機関4機関)が出席しました。今回は、雷別地区の再生事業地視察について説明が行われ、その後、雷別地区及び達古武地域事業について総括的な意見交換が行われました。



ボランティアによるツリーシェルター被覆作業指導実施状況

再生事業地視察：雷別地区

釧路湿原森林ふれあい推進センターの案内により、笹地11、笹地13(雷別地区国有林293林班内)を視察した。293林班はトドマツ林が気象被害を受け(2000年)、大量の枯損木が発生して笹地となった箇所である。ツリーシェルターの設置により順調に生育している樹木、エゾユキウサギにより食害にあった苗木等の状況について視察を行った。

現地視察(笹地13)において、このようなことが話し合われました。(詳しくはHPをご覧ください。)

● 委員長 ● 委員 ● 事務局

● ツリーシェルターの高さは、エゾユキウサギからの保護であれば現在の半分程度でよいのではないか。

● 積雪もあるため安全を見て180cmの物を使用している。

● ツリーシェルターは再利用可能なのか。

● 木の幹が太くなるまで使用すると再利用ができない。

● ツリーシェルターによる樹形への影響はないのか。

● 樹形への影響は無いと思っている

雷別地区自然再生事業について

これまでの経緯

1 背景

- 2000年にトドマツ人工林が気象被害により大量に枯損
- 雷別地区は釧路湿原の源流部にあたり、釧路湿原の環境に大きな影響を与えるため対策が必要
- 2007年に雷別地区自然再生実施計画が承認

2 目標

- 郷土樹種による森林(ミズナラ、カシワ、ハルニレ、ヤチダモ等の広葉樹主体の森林)に再生

3 手法

- 保全区域：小さな木がまとまって生育している箇所は、なるべく手を付けずに保全する
- 天然更新区域：母樹が近くにある場合は、ササを除去(地表処理)し、落下した種子が発芽しやすい状況を作る
- 人工植栽区域：母樹が近くにない場合は、雷別地区周辺で採取した種子から育てた苗木を基本として植栽する

4 これまでの主な事業内容

- 地表処理(ササの除去) ● 地表処理区域への植栽 ● 天然更新区域において更新不良な箇所への補植
- 防鹿柵の設置 ● ツリーシェルターの設置 ● 人工植栽区域への植栽

5 現時点の問題点

- 天然更新が順調に進んでいない → 補植
- 植栽木にエゾユキウサギによる食害が見られる → ツリーシェルターにより保護

6 問題点への対応策